

口語詩句新人賞選考

秋亜綺羅

«新人賞候補3名»

① 田中傲岸

選考理由=言葉を転がすかのように楽しい。すぐコピーライターになれる。

【作品1】

世界とは
ロープでも
おさらばできるが
ただカーテンを閉める
という手もある

【作品2】

「酔った」と揺れる女を
駅に置き去り
振り向くと
もう別の男を呼んでいる

【作品3】

ボクサーが愛されるのは
倒すからではなく
立ち上がるからだ

【作品4】

動物園のトラは
ノイローゼみたいだ
檻のなかを
ぐるぐるぐるぐる
溶けもせず

【作品5】

黒澤映画で自己紹介
どうも
『夢』に『生きる』
『どん底』の『野良犬』です

【作品6】

そりやあ
不死鳥だって
大量発生したら
駆除されるよ
きっと

【作品7】

恐竜がすでに
絶滅していて良かった

人間もいつか
そう思われるのだろうか

【作品8】

いまどきの鬼なら
桃太郎を銃刀法違反で訴え
その家来たちは
保健所に突き出す

【作品9】

地球儀は
すこしだけ傾いている
真実はすこしだけ
嘘くさいものだ

【作品10】

木が
林になり
森になるグラデーションの
奥地に
闇の起源がある

② 永恋

選考理由＝繊細で鋭角だ。開かれたことば使いは、才能か？ 軽くて深い。

【作品 1】

鏡の私とリンクしない
心が追いつかない
少し駆け足すぎたかな

【作品 2】

通学路 ビルの壁には
黒のシミ まると名付けるも
撤去で亡くなる

【作品 3】

一夜だけ
街を魔法で 時を止め
眠った時に 私も寝たい

【作品 4】

人気のないこの場所の
明け方なら
迎えに来ていよいよ
遠い星の宇宙人さん

【作品 5】

あなたとのパズルは
完成しなくていいの

【作品 6】

私の余白を
無理に埋めないで

【作品 7】

あなたの一分が
私の一秒で
私の一分が
あなたの一秒だったら
どうしよう

【作品8】

私は彼の死体を
私しか見えない庭に埋め
いつもみたく
学校に行きました

【作品9】

響く夜泣き
あなたの時代も、
この柿の木はあったの
ひとりぼっちの幽霊さん

【作品10】

雨粒が地面を叩き
地球を質問攻めする

③ 夏

選考理由＝ユーモアが半端ない。ひらめきとときめきで、光ることばも多い。

【作品 1】

私しか聴いていない気持ちで書いた
ラジオの手紙
今日も読まれない

【作品 2】

サバ
そんなに私を見ないで
美味しいってちゃんと言うから

【作品 3】

来世会っても忘れちゃうから
いま告白しておくね

【作品 4】

心臓が止まる音がする

【作品 5】

絶対絶対絶対
絶対絶対絶対
絶対絶対絶対

私の方が好きなのに

【作品 6】

風邪をひいた恋人が
「好きにしてて」と言うので
ずっと傍にいた

【作品 7】

蝶のように舞う
蛾として生きる

【作品8】

「泣けば許されると思うな」
「許されないから泣いてるんだ」

【作品9】

こころ

見えないのに
痛いね

【作品10】

この手紙を最初に見つけた
あなたへ

もっと早く出会えていたら

«獎励賞候補 5 名»

① 金澤春栞

選考理由=読者の想像力も利用して、面白さを深さに変える才能がある。

【作品 1】

喉仏の解説で
へえと一斉に言う
課外授業みたいな納骨

【作品 2】

五年前の私みたいな顔をして
人体模型が隅っこにある

【作品 3】

日常を日常のまま消費して
ベテルギウスの爆発を待つ

【作品 4】

ガンジーになりたい
なれないのはきっと
まだ十七の思春期のせい

【作品 5】

靴下に穴が開いていて私
足の先から消えてくみたい

【作品 6】

死ぬ時は俯せがいいつくつくし

【作品 7】

虫捕りの時も秘密基地の時も
一応不法侵入だった

【作品 8】

ワケありの値下げシールを
見るたびに
個性を見失いそうただだ

【作品9】

楽しみはいろいろあって結局は
炊飯器開ける瞬間がすき

【作品10】

U F Oか飛行機かヘリか
ひとしきり揉めて
ラーメン食べて帰った

② 中野奈々恵

選考理由＝さりげなく、ブラックユーモアのタッチが絶妙だ。

【作品 1】

だらだらと延命治療をしてるのは
生まれた時からずっとそうかも

【作品 2】

無料で読めるところまでしか
君のことは知らないけれど
大好きだよ

【作品 3】

死ぬまでに必要な量の白昼夢

【作品 4】

会いたい以外の感情が死ぬ金曜日

【作品 5】

正直に言おうかな
実はまだ喉に
刺さったままの青い三日月

【作品 6】

いらんことばっかり
言うてしまうから
三十一文字くらいがええわ

【作品 7】

おかえりと言わされたら、
ただいまと言うしかない世界で

【作品 8】

かわいいかわいいかわいい
かわいいって
言わなきや死んじゅう

【作品9】

ジグゾーパズルの最後のピースが
見つからない幸せ

【作品10】

でもこれは
あなたの言葉じゃないから
疑えばいいよ好きなだけ

③ 有本たける

選考理由＝ナンセンスの面白さがわかる人だ。才能を感じる。

【作品 1】

蝶がひらひら
はばたけば
遠くで竜巻のおと
僕のまばたきは
いくつの命を奪う？

【作品 2】

罪悪感を引き立てる
自浣のあとのバタアッキイ

【作品 3】

青く光る
シオカラトンボを舐めてみたい

【作品 4】

生きるのに
向いていないと考える
その心こそ
生きようとしている

【作品 5】

死ぬのなら命を置いてゆきなさい

【作品 6】

空の彼方に空はある

【作品 7】

「五十音」

あいうえおかきくけこさし
すせそたちつてとなにぬね
これで半分

【作品8】

不変

「いとをかし」を
口語に翻訳すると、
「マジヤバイ」

【作品9】

にぎやか

台風一家だと、
ずっと思っていました……

【作品10】

片思いしているときの胸の中は
重いパソコンみたいだなあ……

④ 合川秋穂

選考理由＝日常を文学としてとらえる資質は抜群だ。

【作品 1】

制服のまま寝る 寒天は影も透明

【作品 2】

鳥も歩く 翼では行けない場所へ

【作品 3】

振り返って

こっちが前だって言ってほしい

【作品 4】

オーダーメイドの夜に

署名するためのペン

【作品 5】

そこからが君でここから海らしい

【作品 6】

離別の予行演習 目をみて話す

【作品 7】

もとからの孤独

言葉は誤読も愛す

【作品 8】

燃やすための国旗

ほとんど二色刷り

【作品 9】

内臓を想像できないまま死ぬ

【作品10】

ピンで街を

刺さないと留められない地図

⑤ 加藤美紀

選考理由＝爆笑できる。この、ことばの爆発力はすごい。

【作品 1】

夏

今しかできないことが
あるような
今さらできないことが
あるような

【作品 2】

マスコミは見たまま全てを
報じない
わたしだって隠したりするもん。

【作品 3】

異常気象

季節が読めない空気なのか
空気が読めない季節なのか

【作品 4】

ジグゾーの最後のピースを
埋めるよう
あなたがはじめて
入った瞬間

【作品 5】

放送委員
尾崎豊は
止められた

【作品 6】

サンタはね
Amazonでおもちゃを
発注し
魔女が配達してるという子

【作品7】

息子よ、現状で第一志望に
合格できたなら
「睡眠学習術」の
本を書きなさい

【作品8】

電車、人身事故
「飛び降りたら死ぬのに
バカだねえ」
自殺を知らない娘。

【作品9】

たたみいわしが怖い
視線が多すぎる

【作品10】

風呂上がり
「わたしにも思春期くるかなあ」

まず服を着てから
話は聞こうか